

## 卒五十年記念同窓会に寄せて

最近、何かの文献にて目にした事がある。「五十歳を過ぎたら、同窓会には出席しない方が良い」。このような内容文言だったと思うが……

人生も後半に入り、同窓会に出席しても仲間同士の会話は「病気の事、孫の事、年金の事」等消極的な話題になるからとの事だそう。若い内はこれからの「仕事の夢、人生設計」について未来を語る事が出来る積極的な話題があるからと云う事らしい。

県陵倶楽部20も、卒業三十年を契機に発足し早二十年、ほぼ毎年ゴルフコンペ・総会に参加し、旧友たちとの再会を喜び、互いの近況を伝え合ったり、昔の話題に花が咲いたり、実に楽しいものである。自分の今置かれている世界、現実から一時的に解放され、癒しと心の充電の場、それが『同窓会』と云う集まりではないだろうか。次の開催を楽しみに、自分も皆よりも若くいられる様に、又面白い話題を土産に出来る様、一年を頑張ろうと云う気持ちになれるのだと思う。

年々、仲間が一人欠け、又一人欠けと訃報を耳にする事は仕方がない事だと思うが、古希に近づくとつれ、県陵生活の若かりし日を思い出し、ノスタルジックな思いに浸るのも又良しとしたい。

卒業以来、それぞれの道を歩み、それぞれの今を形成しているが、皆決して順風満帆であった訳ではあるまい。悔し涙を流したり、秘かにガッツポーズをしたり、様々な人生を送って来た筈だと思う。

そんな高齢者が年一回又は、数年に一回一堂に会し、互いの元氣を確かめながら、唯一の共通点である在学中の頃に戻って、昔話で美酒に酔い短いひと時を過ごし、それぞれの明日に向かって戻っていく。それが同窓会なのだ。決して消極的ではなく、旧友の現在を確認し、奴には負けないぞ。皆より長生きをしてやるぞ。と再決心をするものである。

まだまだ現役で頑張っている人、ビジネスライターで悠々自適に人生を送っている人、病臥中の人、皆同じ時代を生きてきたのです。これからもずっと同窓会を楽しみましょう。